

野球部



1972(昭和47年)・秋 史上初のV3。3シーズン連続優勝を決めた一瞬。



3連覇の原動力、萩野投手。



優勝投手萩野にかけよるナイン。



1901(明治34年)・11 第1回慶早戦に出場した両軍メンバー。



1928(昭和3年)・秋 10戦全勝の誇り。宮武、山下などの俊英を擁して連戦連勝、10戦全勝という圧倒的な優勝をなしとげた。



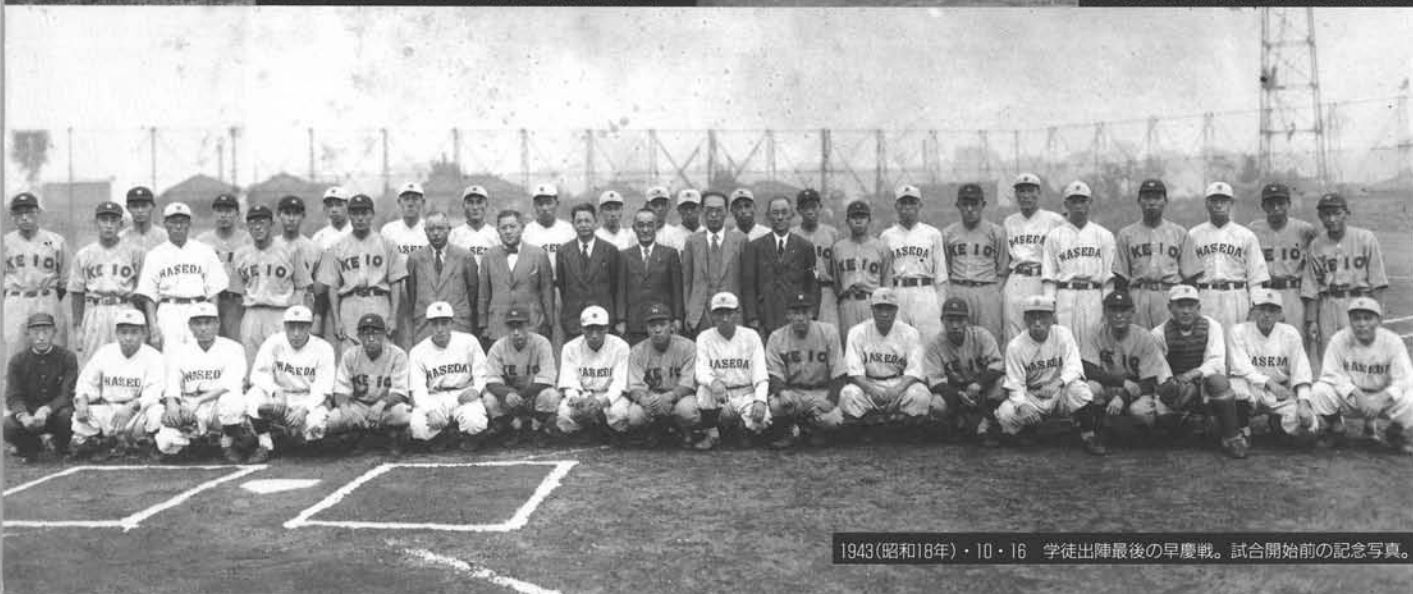
昭和初期の黄金時代の主力、左から水原、岡田、牧野、堀、楠見、山下実。



明治時代にアメリカ大リーグのコーチをうけた。後列左から4人目シェーファー。右から4人目トムソン。



1942(昭和17年) 百万ドル内野陣といわれた宇野(前列左から6人目)大館(前列右から5人目)時代のメンバー。



1943(昭和18年)・10・16 学徒出陣最後の早慶戦。試合開始前の記念写真。



1946(昭和21年) 終戦後は各地でオール慶早戦を行い、野球復興に貢献した。関西で行われた時、六甲の宿舎前で。



1947(昭和22年)・春 リーグ優勝。戦後しばらくは神宮球場がアメリカ軍に接収されていたため、後楽園球場も使われた。天皇杯を持つ大島主将(前列左から4人目)



慶應時代は“悲運の投手”といわれた藤田投手(後)と佐々木二塁手。



1960(昭和35年)・秋 球史に残る慶早6連戦の熱闘! 早大と同率で優勝決定戦となり、引き分け2回の6試合目でついに涙をのんだ。3回戦の9回、徳武の猛烈なスライディングで大橋捕手はねとばされて落球。

このラフプレーに慶應側は抗議、徳武を取り囲んだ。両軍監督が中に入ってその場はおさまったが、スタンドからミカン、空き缶が徳武めがけて投げ込まれゲームは中断。“第2のリンゴ事件”かと思われる騒ぎとなった。





1964(昭和39年)・春 渡辺史上初の完全試合。慶立の2回戦で6大学史上ただ一人、完全試合をやった渡辺投手。最後の打者を三振にうちとった瞬間。



1963(昭和38年)・春 優勝の瞬間。渡辺投手のもとにかけよる左から佐藤、西岡、森谷。



1963(昭和38年)・春 天皇杯を持つ西岡主将を先頭に石黒、本郷ら。



1958(昭和33年)11・11 塾創立100年記念オール慶早戦が神宮球場で行われた。超OB戦に集まった面々……。



1967(昭和42年)・秋 ドン底からはい上がった栄冠。前年秋の最下位から一挙に優勝。うれし泣きの顔をおおいながら胴上げされる近藤監督。



優勝のヒーロー。左から宮倉、藤原、宇賀山。



1975(昭和50年)・春 三冠王となった後藤遊撃手。



1985(昭和60年)・秋 明大2回戦10回仲次の劇的なサヨナラホームランがとび出し、ヒーローを迎えるナイン。このシーズン、57年ぶりで全勝優勝をなしとげる。



1987(昭和62年)・春 早大に大勝して優勝に花をそえた瞬間。右から堤、大森、荻原、志村たち。

1884 アメリカ人ストーマー氏に初めて野球の指導を受ける。

1888 三田ベースボール倶楽部を組織。これを野球部元年とする。

1892 体育会創立と同時に体育会野球部に。

1903・11・26 第1回慶早戦を三田綱町で行い、11-9で勝つ。

1904・6・2 一高を敗り、一高の王座を崩す。

1906 慶早戦は決勝戦の前日中止され、以後20年断絶。

1907 ハワイセントルイス大学を招待。我が国初の外来チームであり、初の有料試合。

1908 ハワイへ初の海外遠征。

1911 第1回アメリカ遠征。／10 三田倶楽部が誕生。三田-稲門戦スタート。

1914 第2回アメリカ遠征。／10 慶早明3大学リーグ結成。

1916 法大が加入。4大学リーグとなる。

1921 立大が加入。5大学リーグとなる。

1922・11・19 三田倶楽部が来日したアメリカ大リーグ選抜軍を9-3で破る。

1923 極東大会の日本代表として全慶應が出場。

1925 20年ぶりに慶早戦復活。帝大の加盟で6大学リーグがスタート。

1926 春、6大学リーグになって初優勝。新田球場新設、新田宿所完成。／10 神宮球場落成。

1927 春、6大学リーグ2回目の優勝。／8 極東大会に日本代表として出場、優勝。応援歌「若さ血」ができる。

1928 春、アメリカ遠征。秋、10戦全勝で6大学3回目の優勝。

1929 春、連続優勝。／11 天覧試合の慶早戦、12-0で快勝。

1930 春、5回目のリーグ優勝。／5 極東大会に日本代表として出場、優勝。

1931 春、6回目の優勝。／3 腰本監督、本郷コーチがアメリカ大リーグスプリング・キャンプ視察のため渡米。神宮球場改装。

1932 春、7回目の優勝。

1933 6大学リーグ、1シーズン制を施行。秋、慶早2回戦で“リング事件”。

1935 6大学リーグ、2シーズン制復活。

1939 リーグ戦7年ぶりの優勝(8回目)。

1940 春、慶明立の3校が同率で優勝は預かり。／7 ハワイ遠征。

1941 日吉球場が完成。

1942 日吉宿所完成。

1943 東京6大学野球連盟解散。／10・16 学徒出陣送別慶早戦。

1945 戦後初の野球試合、神宮で全慶早戦。

1946 6大学野球連盟再建。復活最初の春のリーグ戦(1回戦制)に全勝優勝(9回目)。

1947 春秋とリーグ連続優勝。

1949 秋、12回目のリーグ優勝。



慶應義塾野球部 100



1988(昭和63年)・11・26 野球部は創部100年を迎え、三田で記念式典と記念のOB戦を行った。当日集まった往年の猛者たち。



1991(平成3年)・6・2 慶早2回戦に勝ってリーグ優勝を決めた瞬間。8シーズンぶり25回目の優勝。前田監督の体が小雨のなかに4度舞う。前年の悔しさを晴らした優勝だけに、グラウンドとスタンドの歓喜がひとつになって大爆発した。



1950 秋、対早大2回戦を天皇、皇后両陛下、皇太子、義宮殿下でご観戦。2度目の天覧試合。

1951 秋、13回目のリーグ優勝。

1952 春、連続優勝(14回目)。／8 第1回全日本大学選手権、優勝。

1956 秋、15回目のリーグ優勝。

1958・11・11 慶應義塾創立100年記念全慶早戦開催。

1960 秋、慶早戦は慶早が同率となって優勝決定戦を行ったがなお2度引き分け、3試合目に惜敗。6連戦という熱戦となった。

1961・6 ハワイ遠征。

1962 秋、6年12シーズンぶりの優勝。

1963 春、連続優勝(17回目)。／6 第12回全日本大学選手権、2回目の優勝。秋のリーグ戦で法大と優勝決定戦。唯一のチャンスをものにされ、3-4の惜敗。

1964・5・17 慶2回戦で渡辺泰輔投手が

史上初のパーフェクト・ゲームを達成。秋のリーグ戦で18回目の優勝。

1966 春、不振で史上初のテールエンド。

1967 春、藤原真の力投で、前年度最下位のどん底から優勝(19回目)。

1971 秋、9シーズンぶり20回目の優勝。

1972 春、21回目のリーグ優勝。秋、部史初の3シーズン連続優勝。

1975 春、後藤寿彦が3割8部9厘で首位打者、4ホームー16打点で“三冠王”に輝く。

1981 秋、小林完はシーズン最多記録の16盗塁、通算62盗塁もレコード。

1983・2 53年ぶりのアメリカ遠征。

1985 秋、13年26シーズンぶり23回目の優勝。リーグ戦史上5度目、慶應としては1928年以来57年ぶり、2度目の全勝優勝。／11 明治神宮大会、優勝。

1986・2 アメリカ遠征。春、立大3回戦で加藤健が史上5人目のサイクル安打達成。

1987 24回目のリーグ優勝。／6 第36回全日本大学選手権に3度目の全国優勝。

1988 春、大森剛、5割で首位打者。同時に6ホームー、打点16点でリーグ史上6人目の“三冠王”となった。／7 ブラジル移民80年記念に招待される。／8 大森剛がソウル・オリンピックに出場。志村亮投手は、春の早大1回戦以来、秋の立大1回戦まで5試合連続完封勝利。対法大1回戦から6回戦まで53イニング連続無失点の新記録。／11・26 創部100年記念式典を三田綱町三井倶楽部で行う。また同日午前中、綱町のグラウンドでOB戦。

1989・3 アメリカ遠征。

1990 春、早大とリーグ優勝を争ったが、3回戦に惜敗。

1991 春、8シーズンぶり25回目の優勝。

1991 秋、26回目の優勝。春秋連覇は1972年以来19年ぶり。